



教育理念（あいことば）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

タカラッキー

<http://www.ueis.ed.jp/school/takaragi/>

宝木小学校だより 第3号
令和6年5月17日発行

（発行者 室田 和宏）

イエローリボンは何の印？

5月は宇都宮市を挙げての「いじめゼロ強調月間」。本校でもイエローリボン運動（小さなイエローリボンシールを胸章に貼っています）を展開し、全校挙げて、いじめゼロの誓いを新たにしています。陽西地域学校園では、様々な小中一貫教育の取組がなされており、そのひとつとして、児童・生徒指導の部会では連絡会議を充実させています。今年は第1回連絡会議が6月3日に予定されています。児童指導の担当はもちろん、校長や旧6年生担任、市教育委員会の担当者などが中学校に一堂に会し、児童生徒指導と適応支援の充実に向けて、真剣に協議して参ります。

「いじめを見逃さない」から

「いじめられる子どもを守る」そして

「いじめをしない子どもを育てる」へ！

ある教育誌にこのような記事がありました。

『いじめの心理を考えると、加害者の背景にいじめ人格というような固定的なものがあるわけではなく、おそらく一人の子どもの中で、善と悪の葛藤が生じ、時に悪の衝動が勝って、いじめを行ってしまうことになる」とらえるべきであろう。「いじめは良くない」とはほとんどの子どもが分かっているはずなのに、関わらず、小学4年生から中学3年生までの6年間の追跡すると、9割の子どもがいじめた経験を持っているという調査結果（国立教育政策研究所 2016）もあります・・・』

そしていじめの衝動が起きる原因として次のような例を挙げています。

『①心理的ストレス②集団内の異質なものの嫌悪感情③妬みや嫉妬感情④遊び感覚やふざけ感覚
⑤金銭などを得たいという利得感情⑥被害者となることへの回避感情 など』

ご家庭でもいじめゼロ強調月間にあわせ、「お友だちに優しくしてる？嫌がることはしていない？」という声掛けの機会を増やしてみてください。学校と家庭でしっかり手を組んで、一人一人の“困り感”にまなざしを向け、「いじめをしない子」を育てていきましょう。また、心配な様子が見られた時には、遠慮なく学校へご相談ください。次号では、いじめゼロへ向けた、宝木小の取組を紹介させていただきます。

50周年に寄せて 宝箱の寄贈 ～地域にかわいがってもらえる宝木っ子～



“笑い20%増量を宝木地域にも広げていってほしいと思っています。宝木地域には、皆さんを見守ってくださっている方がたくさんいます。時には厳しく注意されることもあるかもしれませんが、それは皆さんが可愛いが故。まずは気持ちの良い挨拶を心がけてみましょう。・・・今日は、50周年を迎えるにあたって、宝木小学校の皆さんへの思いを届けてくださった、先生のお友達？からのプレゼントの品を紹介しま

す・・・”15日の朝会でこんな話をしながら、素敵な宝箱を紹介しました。本校が40周年を迎えたころにPTA会長と魅力ある学校づくり地域協議会長、現在は地域の自治会長を務め、木製家具作家として活動している 様から寄贈いただいたものです。希少な材料を用いて、宝木小学校の発展と子供たちの健やかな成長を願って長期間にわたり制作した宝箱。休み時間になると、早速たくさんの子供たちが“宝箱を見せてください”と校長室にやってきています。保護者や地域の皆様の愛情をたっぷりと感じ取りながら、“かわいがってもらえる宝木っ子”を大きく育てていきたい、改めて強く感じました。